

# 令和3年度八重山博物館文化講座『首里城の復元』について

令和3年7月28日（水）午後、石垣市民会館大ホールで、高良倉吉琉球大学名誉教授をお招きして八重山博物館文化講座『首里城の復元』を開催しました。ご来場頂いた皆さまありがとうございました。

今回の講座をとおり八重山諸島との関係や首里城の歴史、これからの首里城の復元について理解を深めることができたのではないのでしょうか。

ここでは講座の実施方法や講話の概要、実施したアンケート結果より講座への感想、質問への回答などについて紹介します。

## 1 実施方法

今回の講座は、沖縄県内でも地域によっては新型コロナウイルス感染が蔓延している状況が続いている中での開催となりました。開催の有無は、市内の感染状況を見ながら、場所を市民会館中ホールから大ホールへ変更して、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底しました。

講座は18時20分から19時45分までとし、17時20分より受付を開始、来場者が密にならないようにスムーズな流れとなるように注意を払い、受付で検温、必要項目を記入・確認した上で入場、座席は隣の席との間隔を十分に設け、前後席も重ならないように指定し、出入り口は換気のため開けたままとしました。

また、会次第は、時間の短縮を図り、質疑応答は、マイクの受渡により感染リスクが高くなることも想定するため、アンケートの中で項目を設け、終了後に博物館HPで回答することとしました。なお、アンケート用紙は厚手のものとし、各自専用のクリップペンと一緒に配布して、座席で記入が出来るように工夫しました。

## 2 講話の概要

朝日に染まった空を背景とした首里城が大きなスクリーンに映し出され、高良倉吉名誉教授により、講座の前半は、首里城のある場所、周辺の文化遺産・歴史遺産、首里城内の建物の配置や役割、加えて宮古・八重山の役人が登城時に滞在した場所（宮古蔵）や城内に建立されたオヤケアカハチ・仲宗根豊見親に関係する石碑などが紹介され、首里城が他の地域の城や宮殿とは異なった独自の世界観と価値観を持っていたことを学ぶことができました。

また、講座後半は、復元へ向けての取り組みの講話で、防災対策をこれまでにないほどに徹底すること、雨天時でも作業が可能のように倉庫を準備して木材の保管や加工が行われること、建物の中心的な構造材には、国頭村・石垣市からオキナワウラジロガシが使用されること、建物の塗装の際は細かな箇所まで検証すること、見せながらの復元となることが紹介され、これからの復元についても理解を深めました。



文化講座の様子

### 3 参加者の講座への感想（アンケート結果）

講座では、今後の講座や博物館の運営に活かすために、アンケートを実施しました。参加者は79名（石垣市内77名、八重山郡内1名、沖縄県内1名）内、60名（回答率76%）より回答がありました。その結果を次のとおり紹介します。

#### Q1：年齢・性別？

40歳以上の参加が8割以上を占めた。若い20・30代の参加は2割以下であった。40歳以上が興味を持つテーマであったが、若い方にも関心を持っている方がいたと考えられた。

#### Q2：文化講座を何で知ったか？

一番多かったのは新聞（42%）で、チラシ（17.2%）、知人の紹介（12.6%）と続き、新聞（誘い）の効果が大きかったと考えられた。

Q3：文化講座はどうだったか？

「大変満足」、「満足」と答えた方は全体の78%（48名）で、「やや不満」、「不満」と回答した方は13%（8名）であった。

Q4：「やや不満」、「不満」と答えた方だけに尋ねたその改善点は？

その理由を、レジメや資料などを配布してほしい（2名）、写真がもっとあれば（2名）、質問をしたかった（1名）とあげていた。

その他にQ3で「大変満足」、「満足」と答えた人の中にも、空調の効きが悪い（5名）、聞きづらかった（1名）など施設や機材に関する事、開始前にBGMを流して欲しかった（1名）など改善点をあげていた。

Q5 講座・講師への感想と質疑

#### 【感想】

講座・講師への感想を25名から頂きました。その中から次を紹介します。

○高良先生の貴重な講座を受けることができとても勉強になりました。会場もコロナ対策がしっかりされていて安心して参加することができました。ありがとうございました（20代女性）

○ご経験を交えた講座で、分かりやすくお気持ちの入ったものであったと思います。琉球王府時代の八重山との交流は新鮮なお話でした（30代男性）。

○30年以上取り組んできた首里城が焼失し、また復元へ向けてどのようなお気持ちかと思っておりましたが、次世代へ文化を伝えていく強いお気持ちが聞けてよかったです（30代女性）。

○講師の声がとても心地よく、大ホールで話しが聞けてとても良かった。復元した時の話を沢山聞けて、改めて焼失したものの大きさを知りました。ありがとうございました（40代女性）。

○首里城を通して本土とのつながりや先島とのつながりさらには海外とのつながりについて考えることが出来ました。ありがとうございました（40代女）。

○資料や報道だけでは伝わらない高良先生の心情も含めた情報が知れてとても良かったです。ありがとうございました（40代女性）。

○2度も復元に関わる講師のお話は、分かり易く、興味深かったです。続編の講演会を期待します。ありがとうございました（50代女性）。

○大変勉強になりました。首里城復元で沖縄のアイデンティティーを取り戻したいですね（60代女性）。

○復元が楽しみです。「見せる復元」是非足を運んでみたくなりました。エピソードをもっと聞きたかったです（70歳以上女性）。

## 【質問と応答】

参加者より沢山の質問を頂きました。質問の内容は、講座の主旨にそったもののほか、講座に関係のない事業主体者や管理団体などに対する質問・意見がありました。今回の講座への質問に対する講師からの回答を次のとおり紹介します。

Q1 今回の復元にはどのような専門家が関わりますか？

回答：

歴史・考古・文学・建築・工芸・造園の分野に加えて、今回は特に防災・防火の専門家が関与します。

Q2 今回の復元でも前回の施設と同じようになりますか？

回答：

焼失した前回の施設を基本的に復元しますが、その後の新しい資料や知見を踏まえた見直しを行った復元となります。

Q3 伊是名島は首里城（王府）との関係は深いですか？

また、伊是名島出身の高良先生も王府と関係がありますか？

回答：

伊是名島は第二尚氏の初代である尚円王（金丸）の出身地であるため、王家と特別な関係がありました。例えば、尚円の叔父を祖先とする銘苅家には、首里城の王（尚敬王）が贈った直筆の掛け軸があります。高良は伊是名島の生まれですが、先祖は普通の農民であり、尚家とは全く関係ありません。

Q4 今回の大龍柱の復元では、与那国産の石材が使用されますか？

回答：

歴史資料では、大龍柱は沖縄本島で入手できる砂岩（方言でニービヌフニ）で彫刻されていたことが分かっています。しかし、そのサイズの砂岩は現在の沖縄本島には存在しません。

それに近い与那国島の砂岩が前回の復元では活用されました。今回も、与那国島の皆さんの協力を得て、同島の石を使う方針です。

Q5 調達する目途がついたヤンバルの森からのオキナワウラジロガシは、世界遺産に登録されたことで支障をきたしませんか？

回答：

ヤンバルの山林で育つオキナワウラジロガシ（方言でカシギー）を利用する方針ですが、伐採予定のその場所は世界自然遺産の範囲外にあります。そして、自然環境に影響を与えないように慎重に入手する計画です。

Q6 第二次世界大戦で消失する以前の首里城の資料や写真はないですか？

回答：

明治・大正・昭和（戦前）時代に撮影された数多くの写真が残っています。それらの写真を収集し、前回の復元に活用しました。去年、1870（明治10）年にフランス海軍の軍人が首里城を

撮影した最古の写真が公表され、注目を集めました。

Q7 復元するのはどれだけの年月がかかるでしょうか？

回答：

5年後の2026年度には、正殿が完成する予定です、その後、北殿や南殿などの復元工事が始まりますが、全体が完成するまでの工程は検討中です。

## 5 最後に

今回の講座は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した中で、高良倉吉琉球大学名誉教授を招きし、『首里城の復元』をテーマに講話して頂きました。講座には80名が参加して幕を閉じました。

講座をとおり首里城の歴史的な背景や八重山諸島との関係について学ぶとともに、これからの復元について理解を深めました。今後、八重山諸島の歴史や文化について見つめ直し、新たな発見があることを望みます。

また、アンケートをとおり、参加者からの感想や貴重な意見がありました。その中には講座「首里城の復元」の続編を望む声もありました。今後の八重山博物館講座や他の事業などに活かしたいと考えています。

来年度は開館から50年にあたります。博物館建設に向けての取り組みも進められています。

これからも皆様と共に、貴重な品々を守り、そして活用していく施設として努力を続けたいと考えています。今後も八重山博物館へのご協力をお願い申し上げます。